

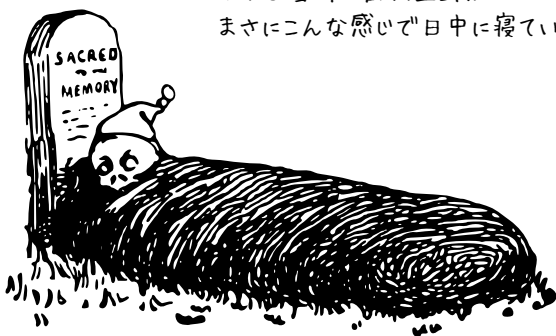
「クリニック開業は不安よりワクワクの方が大きいんだよ」と何から何までサポートして下さる社長さんの声を受けて、どんなクリニックにしようと思っているのか、どんな人の助けになれるのか、ダンナの心境はさていかに…。

【そもそもなぜ医者になん？】

「クリニックを任されるといふ突然の流れがやってきましたよね。」

そう。だけど、僕は6年前に寝たきりの状態がずっと続いて、そこからやっとのことで復活してきたんだけど、もう今から「一花咲かせてやろう」とか「開業」なんていう気持ちは全然なかったんですよ。

ゾンビ当時の西村医師w
まさにこんな感じで日中に寝ていました



ただ、僕は臨床（現場で患者さんを診る立場）しかできない人間だから、「目の前の患者さんとしっかり関わって、患者さんの身体に触れ、患者さんの微細な身体の声聴く」ということをずっとやってきている。なので、それ以外は本職にならないといふか…。

今までの人生そういう風に自分で訓練してきたし、得意で、慣れてて、長時間続けていてもしんどくない領域がやはり「目の前の人の身体に触れること」なんです。

【ママ友の五十肩を良くしてあげた体験】

「へえ、そうなんですか。そういうことが得意だと自覚し始めたのは、いつごろから？」

これは医学部入る前からね。指圧・マッサージを自己流でやってた時があって、すごく面白くなってきた頃、仙人みたいな大村先生という人生の師に出会ってね。（指圧や野草で体調改善など自然治癒力をあげることを教えていた）

この先生のところに通いはじめ、**触診即治療**と言って、しこりのある所はすぐほぐしましょうといふいろいろ教えてもらったり。

近所のおじさんのしこりをゴリゴリってやると「関節が動くようになるなあ」といふことを見つけたりね。

そのうち大村先生と「もしこういうこと続けるのだったら、医師免許持ってた方がいいのでは？」という話になり、当時の農学部の学生から医学部に転部しました。

また、実家の母が、「うちの息子がいま整体マッサージ勉強中だから実験台になってよ〜」と近所のママ友を集めてきてさ。子供が大学生だから親世代は50歳くらいかな。

で、肩こりや五十肩の人も多くいたから勉強していた技術を使って、何人もほぐしてたのね。そうしたら「楽になったわあ〜」とみんな喜んでくれて。



自分が学んできたことを使って人が喜んでくれたといふのは、すごくうれしい体験だったんですよ。

それに、身体って動かなかった部分がほぐすことによってすぐ動くようになるから「**人の身体って面白いなあ**」とも思ったのですよね。